I 自己評価		岐阜県立関高等学校	学校番号	35
1 学校教育目標	<p>知・徳・体に調和のとれた豊かな人間性を持ち、「高い志」とグローバルな視野をもって、将来、地域社会の発展のために貢献できる有為な担い手を育成する。</p>			
2 現状の分析	<p>【教務部】 ○ICT機器使用にあたっての利便性が向上した。 ▲保護者、生徒アンケートによると、本校の学習支援が理解に繋がっていないという評価が増加している。HPでの情報提供が不十分との評価や、学校の施設・設備に対して評価が低い傾向である。</p> <p>【生徒指導部】 ○教職員間の情報共有を図り、学年や各分掌と連携を取りながら早期発見・早期指導に努め、組織としての対応を行っている。</p> <p>【教育相談部】 ○生徒の心の自立支援のための寄り添い・支援ができています。 (早期発見・早期対処するための組織的対応、職員間の情報共有と共通理解、SC・外部機関への繋ぎ等) ▲家庭への情報発信が効果的に為されておらず、家庭との連携(保護者の悩みや相談への対処)が不十分である。</p> <p>【進路指導部】 ○探究活動の成果を、学校型推薦および総合型選抜で生かしている。 ▲幅広い生徒層が入学してくるため、上位層と下位層に乖離が見られる。</p> <p>【特別活動部】 ○多くの生徒が、学業だけでなく行事や部活動にも熱心に取り組むことができる。 ○生徒会を中心として、強い責任感と豊かな発想力をもって主体的に学校の活動に取り組んでいこうとする姿勢がみられる。 ▲ボランティア活動の大切さを学ぶ機会が十分に提供されていない。</p> <p>【保健厚生部】 ○保健・衛生・防災安全の3つの項目のねらいにおいては、概ね目標を達成できたと思われる。各項目の担当者が丁寧に計画を立て、実行している。</p> <p>【図書部】 ○進学実績や教育内容については、地域の方々に評価していただける「一定の成果」をあげている。 ▲新型コロナウイルス感染拡大防止に対する対応を迫られ、SGHアソシエイト校としての活動が十分に実施できていない。</p> <p>【学年会】 ○生徒の進路実現に向けての学習支援等は、集団としての取り組みにおいて十分に出来ている。 ○課題解決型研究を通して、生徒の視野が広がりつつある。 ○グローバルに活躍できる人材の育成を目指し、語学の力を活かす活動が出来ている。 ○多様な人材を活かした講演会や交流会が出来ている。 ○メール配信システムによる学校からの情報発信(非常変災時やコロナ対策など)に対する肯定的な評価割合は9割台を維持している。このことから、学校の安全指導や健康管理に対する保護者の満足度は高いと言える。 ▲個別の学習支援や進路指導は、教員数や他業務に要する時間の確保の観点から十分とは言えない。 ▲コロナ後を見据えた、国内外への研修推進が必要。</p>			
3 学校の抱える課題	<p>【教務部】 ・学力上位層の他地区への流出をいかにして防ぐことができるか。 ・進路希望・興味・関心に応じた好適な科目選択をいかにして可能とすればよいか。</p> <p>【生徒指導部】</p>			

		<p>・生徒一人一人が抱える問題は様々であり、人間関係がうまく構築できない生徒に対してじっくり話を聞くなど、個に寄り添った指導をいかに向上させるか。</p> <p>【教育相談部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校外での事案もある中、地域や警察との連携をいかに図っていけばよいか。 ・生徒間の良好な人間関係構築・コミュニケーション不足に対する支援をいかに行うか。 ・増加しつつある進路実現・学業不振に係る不安・悩みへの寄り添いをいかに行うか。 ・家庭との連携・家庭への情報発信をいかに行うか。 <p>【進路指導部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岐阜地区および私立高校への地区上位層の流失をいかに防ぐか。 ・難関大学合格者増加のための教員の指導力向上をいかに図るか。 ・難関大学を目指す生徒の育成をいかに図るか。 <p>【特別活動部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間性（健全な身体と心）の育成にいかに力を注ぐか。 ・ボランティア活動の大切さを学ぶ機会の提供をいかに行うか。 <p>【保健厚生部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員ばかりが必死に努力するのではなく生徒の自主性や積極性を引き出し、保護者の理解・協力を得るように、細やかに情報発信しながら、新たなアイデアをいかに募るか。（特に日々状況が変化していく新型コロナ対策や防災に関して） <p>【図書部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、少子化の進行や高校間の競争激化により、生徒の獲得が一層困難になっていく中、いかに生徒を募集するか。 ・多様化する「入学生」、変わりゆく「入試制度」等に対応するための、新たな「教育システム」をいかに構築するか。 ・地域の方々に評価されている本校の独自コンテンツの展開と、教員の働き方改革の両立をいかに行うか。 ・円滑な世代交代をいかに行うか。（教科指導・進路指導・生活指導等において、学校としての「教育力」を維持し、生徒を育てながら教員も育てる「組織」づくり。） <p>【学年会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒への積極的な学習支援や進路指導を行う時間を確保するための業務体制をいかに構築するか。 			
4 今年度の具体的な重点目標		<p>(1) 生徒一人ひとりのコミュニケーション能力や課題解決能力を育成する。</p> <p>(2) 国際的な素養を身に付け、多様な価値観を認めあえる人材を育成する。</p> <p>(3) 確かな学力とともに、勤労観や職業観を涵養し、自分の将来を設計できる能力を育成する。</p>			
年 度 目 標		年 度 末 (途中) 評 価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題
勉強する 関高生 “Study hard！”	①国際的な、あるいは地域のリーダー養成に実績のある難関大学への進学を可能とする指導を充実させます。	①国公立大学合格率50%以上。難関国公立大学合格20名以上。	【教務部】 ・新教育課程編成において、新たに地域課題解決型学習、海外研修の単位化を図る予定。 【進路指導部】 ・コロナ禍にもかかわらず、共通テストにおいて、生徒は概ね実力を発揮することができた。科目によっては、県下進学校上位3校に迫る成果を挙げた。	B B	○自主的に行われてきた活動を新教育課程に位置づけ、単位化を図ることができた。 ▲上位層の進路意識の向上に繋がる具体的手立て、学習環境の向上が必要。 ○早い段階からの進路説明会等で生徒の意識を高めることができた。 ▲組織としての進学指導の構築が必要である。

	<p>②キャリアプランニング能力を高めるために進路行事を幅広く実施し、生徒が自己実現できる力を養成します。また、特色ある教育課程のもと、生徒の多様な進路希望実現のための学力向上を図ります。</p>	<p>②1, 2年次生の進研模試偏差値70以上20名、60以上120名。3年次生の全統模試偏差値65以上30名、60以上80名。</p>	<p>【教務部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新教育課程に応じた来年度の新カリキュラムを構築した。 ・進路希望に応じたコース科目選択を実施した。 ・新型コロナによる自宅学習期間に、オンライン授業支援を実施した。 <p>【進路指導部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路講演会、全学年希望者対象の社会連携セミナー「さくら塾」や進路セミナー、進路説明会等を実施した。 ・進研模試偏差値については、1年次生偏差値60以上が117名、2年次生が122名、3年次生が51名とおおむね達成できた。しかし3学年とも高偏差値(1, 2年70、3年65)の人数は達成できなかった。 	<p>B C A B B</p>	<p>○新課程に応じた特色ある単位制教育課程を整備することができた。</p> <p>▲進路希望、興味・関心に応じた好適な科目選択のナビゲートが不的確であった。</p> <p>○生徒の安全の確保と学習機会の保障、過度の負担がかからないような形態で、感染症対策を踏まえた学習支援を行うことができた。</p> <p>○生徒の志望や学力層に応じた進路行事を行い、キャリアプランニングを意識した指導を継続する。</p> <p>▲難関大を目指させる指導を早期から始め、上位層育成のための情報共有・指導を学校全体で行うための方策を検討する。</p> <p>▲中間層を上位層へ押し上げ、また下位層の低下を押しとどめる各教科の丁寧な指導と学年の連携を図る。</p>
	<p>③大学入試の多様化および新しい入試制度や学習指導要領に対応した、思考力・判断力・表現力・コミュニケーション力を伸ばすための授業改善に努め、主体的に学習に取り組む姿勢を養います。</p>	<p>③校内生徒アンケートの該当箇所に関する肯定的評価80%以上。</p>	<p>【教務部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT環境の整備とICT機器利用のための研修を実施した。 <p>【進路指導部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内生徒アンケート結果によると「進路情報を示し生徒の可能性を引き出そうとしている」(90.7%)、「進路志望に沿った指導ができていた」(84%)であった。「関高進路だより」を定期的に発行した。 	<p>A A</p>	<p>○実用に照らした保管環境、貸借環境を設定し、ICT機器利用の利便性を向上させた。</p> <p>○職員の実態に応じた研修を無理のない環境で実施することができた。</p> <p>○校内生徒アンケートの進路指導該当箇所に関する肯定的評価は高かった。</p> <p>○進路だよりを発行し進路意識の高揚を図るとともに、多様化する大学入試に関する情報を生徒及び保護者へ提供した。</p> <p>▲共通テスト及び個別試験に対応した指導を研究し授業に生かす。予備校等の難関大学の入試問題研究会などを教員へ広く紹介し参加を促す。</p>
<p>マナーの良い 関高生 “Be polite!”</p>	<p>①教職員の声かけと生徒会活動が一体となることで、「時間」「約束」を守り、「挨拶」「感謝」を大切にしたい行動の具現化を図ります。</p>	<p>①身だしなみカードの指導の実施。遅刻数、欠席数、携帯使用マナー違反の減少傾向を維持。</p>	<p>【生徒指導部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常的な教職員の声かけによる身だしなみ指導やMSリーダーズや風紀委員による交通安全啓発活動、駐輪場の警備巡回など行うことができた。遅刻、SNS等マナー違反の減少傾向は維持できたが、欠席は増加した。 	<p>A</p>	<p>○身だしなみに関しては学校評価アンケートでも高校生としてふさわしいものであると、93.8%の高い評価を得た。</p> <p>○様々な活動から学びを推進し豊かな人間性を育む。MSリーダーズや風紀委員が警察や地区交通安全協会と連携して啓発活動をおこなった。</p> <p>▲3年生での欠席が増加した。また、コロナ禍での勉強や受験に向けての不安から出席停止となるケースがあった。一人一人に寄り添った指導や家庭との連携をより一層図っていく必要がある。</p>
	<p>②安全・安心な学校生活を送るために、生徒の心</p>	<p>②保健室、教育相談だよりを生徒・保護者あてに月1</p>	<p>【生徒指導部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートを3回、いじめ防止等対 	<p>A</p>	<p>○教職員間の連携を密にして早期発見・早期対応な</p>

	<p>身の健康を支援する環境づくりと家庭との密な連携をします。</p>	<p>回程度発行。いじめアンケート・いじめ防止等対策検討会議を年3回実施。</p>	<p>策検討会議を4回実施した。さらに臨時いじめ防止対策検討会議を1回実施した。</p> <p>【教育相談部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「心のアンケート」を毎月実施し、生徒個々の実態把握・理解に努めた。不安や悩みを抱える生徒・保護者に対してはスクールカウンセリングにも繋げた。外部機関との連携を図り、学校全体で組織的に対応した。教育相談日より、計画通り発行できなかった。 <p>【保健厚生部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健室からは、保健委員会が生徒用を、養護教諭からは、教員向けに毎月テーマを決めて保健だよりを発行した。防災に関しては、保健委員会で保護者にも伝えたいという意見があり、三者懇談に向けて壁用の掲示物を作成した。 	<p>B</p> <p>B</p>	<p>らびに情報の共有に努めスピード感をもって対応にあたり、家庭との連携を図った。</p> <p>○生徒の心の自立支援ができた。 (早期発見・早期対処するための組織的対応、職員間の情報共有と共通理解、SC・外部機関への繋ぎ)</p> <p>▲生徒への情報発信を増やしたい ▲家庭(保護者)への情報発信・情報共有を密にしたい。</p> <p>○保健だよりを毎月発行した。 ▲保護者にも見せるよう生徒に指導する必要がある。教室掲示用も一部作成する。</p>
	<p>③学校の教職員、生徒、保護者、地域の方々の連携を深め、教育活動を展開します。また、ホームページ、広報誌、回覧板等を活用して、地域に情報を発信します。</p>	<p>③PTA役員会、保護者懇談会、地域の声によって評価。</p>	<p>【広報部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により計画していた行事が今年度もほとんどできなかったが、体育祭の応援録画や校内PTフォーラムの講演会をWeb配信できた。 	<p>B</p>	<p>○応援録画の視聴は多数あった。PTフォーラムの講演会は少なかった。 ▲ホームページの有効活用を積極的に進めることが必要。会長のページを設けて随時配信したい。</p>
<p>汗を流す 関高生 “Work hard!”</p>	<p>①生徒が生徒会活動やFRHに関わる活動を経験し、様々な行事を主体的に運営できるよう、支援をします。</p>	<p>①校内生徒アンケート「協力して取組む」や「お互い認め合う」といった項目の肯定的評価80%以上。</p>	<p>【特別活動部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に体育祭において、コロナ禍での安全な行事の在り方や運営方法を生徒自身が検討できる機会を複数回設け、生徒の主体的な取り組みの支援を行った。教員主導の面も多かったが、行事やその他の活動にあたっては、生徒の思いを理解し大切にして作り上げていく、という意識を持って取り組んだ。 	<p>B</p>	<p>○体育祭・文化祭ともに、例年と異なる日程・形態については不満の声は上がったものの、思い出作りや友情を深める場になったという声は多くあり、概ね、仲間との協同の場とすることができたと言える。 ▲コロナウイルスや毎年の異常気象、働き方改革などにより行事の縮小や見直しが求められる中で、生徒の思いや主体性を尊重しながら行事の計画・運営を進めていくことの難しさを感じる。</p>
	<p>②部活動への積極的な参加を促し、集団における個の役割を自覚させると同時に、個を活かす集団のあり方を学び、協調性と個性を尊重する態度を養います。</p>	<p>②部活動の登録率85%以上。</p>	<p>【特別活動部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入生オリエンテーションの一環として、4月に部活動紹介を行い、新入生の部活動加入を促した。制限された活動時間の中でも有意義な活動となるように、時間の使い方や活動内容を検討し、また、部員同士が互いの立場や考えを尊重しつつ、皆がいきいきと活動できるような集団となるよう、各部活動にお 	<p>A</p>	<p>○部活動加入率は85.2%であった。 ○十分な活動時間がなく、コロナウイルスにより活動制限が頻繁になされる中、活動内容を検討・工夫することで、多くの部活動において例年と遜色のない成果を上げた。 ▲部員数の少ない部活動の廃部、統合など、引き続き部活動体制の見直しを検討していく必要がある。</p>

			いて指導した。		
	③FRH活動や異校種間交流の機会を通じて、地元の様々な催しに参画し、積極的に校外で関高生が活躍する機会をつくります。	③校外活動で実績を挙げた生徒数のべ300名。	【研究推進部】 ・コロナ禍にも関わらず、地域連携は着実に進み、イベントやコンクール等でめざましい成果を挙げた。	A	○地域イベントの充実。一般市民との協働、参加の増加。 ▲感染症対策と活動の両立。今後に向けた活動の継続。
グローバルな関高生 “Be global!”	①1年次で地域の活性化に取り組み、2年次でSDGsを扱う課題解決型研究において、生徒の視野を大きく広げる支援をします。	①各学年のHR・学年発表会の実施。全校発表会では2年次生はAll Englishで発表。	【研究推進部】 ・校内発表会以外にも、各種コンクールや地域向けイベントで研究成果を発表することができた。 【1年学年会】 ・10/12、19、26に各HRで経過報告会、11/16にクラス予選会、11/30学年選考会を実施。 ※代表発表者は3/11に向けての活動、他の生徒はポスター作成の活動を実施 【2年学年会】 ・HR内の各グループが主体的に課題設定をし、外部の団体等とも自主的に連絡を取る等したうえ、現状認識に努めた。その調査を踏まえ、自ら実行可能な課題解決法を探り、それについて英語ポスターもしくはプレゼンテーションを作成。	A B A	○生徒全体の研究水準・発表内容の向上。 ▲感染症対策と活動の両立。今後に向けた活動の継続。 ○学年テーマ「まちづくりとSDGs」に関して、生徒は興味・関心に応じた個人研究テーマを設定し、身近な問題について考察を深めることができた。 ▲外部との接触を控えたことや、年間計画の変更に より、調査研究や資料作成で活動しにくい状況があった。 ○生徒が主体的に行動することができた。教員の方向付けさえあれば、創意工夫をし、様々な課題解決に取り組めた。 ▲感染症対策等で実地調査を受け入れてもらいにくい環境だった。
	②語学の4技能を高め、グローバルに活躍できる人材を育成し、さらにその力を活かす機会として国内外の研修や地域の催しへの参加を促します。	②語学の力を活かす活動の参加者の増加。	【研究推進部・2年学年会】 ・県主催のスピーチコンテストでは、第1位(地区大会)を受賞。また英語プレゼンテーション大会では、優秀賞・ベストプレゼンター賞に輝くなど、グローバルな人材育成に向けて実践的な活動ができた。	A	○大会等に積極的に参加し、十分な成果を残すことができた。 ▲参加する生徒が限定的であり、より多くの生徒に活躍の機会を与えられるよう工夫が必要。
	③地域の方々、卒業生、保護者等、多様な人材を活かした講演会や交流会を実施します。また広報活動を活性化させ、講演会・交流会を地域の方々に開放します。	③各講演会・交流会のオンライン参加を含めた外部参加者100名。	【図書部】 ・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、芸術鑑賞会を中止した。 【研究推進部】 ・感染症対策に留意し、講演会やセミナーなどの各種イベントを行った。 【2年学年会】 ・中学生模擬国連・関ジモト大学・ミニ文化祭等、地域と連携し、地域住民が参加できる催しを多数開催した。また、探究活動につい	B B A	▲「芸術鑑賞会」の安全な実施をいかに行うか。 ○参加者による質疑応答の活発化。 ▲感染症対策と活動の両立。今後に向けた活動の継続。 ○地域が生徒の活躍を目にする機会と、地域が生徒を育てる機会を作り出し、生徒の学びの意欲につながった。 ▲感染症対策で人数の制限等が必要であった。

			<p>て主に中学生に説明するオンラインイベントも他校と協力して実施した。</p> <p>【3年学年会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最高学年として体育祭・文化祭の学校行事や部活動等、特別活動をリードし、100年の伝統を次の学年に引き継いだ。 	A	<p>○学年団のメンバーで様々な業務を協力して円滑に行うことができた。焦ったりぶれたりすることなく生徒に向き合えた。</p> <p>▲さらに高い目標を持ち、学習や部活動に取り組む。</p> <p>▲コロナ感染防止によりやむを得ないが、学校祭の時にもう少し生徒と向き合える時間があるとよかった。</p>
--	--	--	---	---	--

11 総合評価	A	B	C	D
---------	---	----------	---	---

12 来年度に向けての改善方策

II 学校関係者評価 実施年月日：令和4年2月8日

<p>【評価1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該自己評価は、現状をしっかりと把握し、課題を的確に認識して対応策を示していることから、評価できる。 ・地域の課題解決等を実践していくことは、座学の重要性を生徒各自が気付くきっかけになるだけでなく、今後の大学入試選抜方法の変革にも対応できることから、さらに推し進めていただきたい。中学・高校時代の成功体験は、進学・就職等により、いったん地元を離れたとしても、将来的には、地元への貢献心を導くものであることから、大変重要なものであると思われる。中高接続での教育の工夫もさらに行われることを期待したい。また、外部コンテンツ利用の検討も高く評価できる。Covid-19感染拡大を契機に、社会が大きく変わる中で、Society5.0時代の教育を施していくためには、ICTの更なる活用が学校現場で強く要求されるものと思われる。ただし、上手くICTを活用しながらも、人間性に富んだ人を育成していくためには、日常における地域との関わりが重要であることから、生徒指導においても、さらに力を注いでほしい。 <p>【評価2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上、身だしなみ、いじめの問題、FRH活動、グローバル人材育成等様々な問題に取り組んでいることに感謝する。 ・むしろ我々が学校側に理解を示し、「学力向上」「課題解決力向上」等に焦点を絞って学校側を支援したい。 ・外部からの様々な要望や規制もあるが、教師がのびのびと楽しんでいることが生徒に伝わるとよい。 ・今後少子化に伴って生徒の獲得が困難になっていくことを考えると「バランスのよい教育」より「他校とは違う突き抜けた教育」を目指すことも必要である。 ・いつも全力で取り組んでいただきありがたい。
--

<p>【教務部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新教育課程実施に向けて、生徒の進路希望に好適な選択型類型の整備を行う ・職員全体の学習支援アプリに対する理解を深めるとともに、実践を積み重ね更なる活用を促す。 ・到達度上位の生徒に進取の気概を賦活し、より高次の進路目標をもたせる。 ・学力遅進者の学力向上への啓発を行うとともに、支援の仕組みを構築する。 ・入学検査と卒業式の準備を同時に行う必要がある等、業務の偏りが著しい。業務を適所に配置する必要がある。 ・外部コンテンツの利用を導入できないか（非常変災時等、事前準備が困難な状況でのオンライン学習支援の備えとして、あるいは土曜講座、週末課題として、また、反転授業の教材として）。職員の労働負担減にも繋がる。 <p>【生徒指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自ら主体的に行動し、地域や社会とも積極的に関わり心豊かな人間性を育むマナー指導やモラル指導を推進する。 ・家庭や地域、警察との連携を図る。 <p>【教育相談】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題に結びつく「芽」の早期発見・早期対応への組織的アプローチが必要である。 <p>(職員間の情報共有・共通理解、学年主任、分掌等との連携の下、迅速な対応に向かえる体制づくり、SCの効果的活用、面談週間の効果的設定、職員研修会の実施、家庭との連携、保護者への情報発信等)</p> <p>【進路指導部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学指導推進事業の指定を受けて、受験に対応した教員の指導力向上を目指し、予備校講師による指導方法を各教員が学ぶ研修を設ける。 ・令和7年度大学入学共通テストにむけた「情報」の研究が必要である。 ・探究活動を生かして国公立大学の総合型選抜合格者を増やすための分析、研究が必要である。 <p>【特別活動部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会、生徒会、特別活動部の連携を強化し、できるだけ多くの生徒の意見が吸い上げられ、反映されるような体制作りを行う。 ・先を見通して余裕を持った実施計画を立て、十分な議論を保障する。

【評価3】

・限られた時間、またコロナ禍という特殊な状況の中で、関高校の先生方は本当に生徒の為に尽力している。そこが近年の貴校の高い進学実績にも表れている。地域のリーダーを輩出するトップ進学校としての方向性は間違っていないと思うので、学力、人間性を共に向上させる指導をこれからも継続してほしい。地域との連携に関しては、もっと地元企業や各団体等を頼るとよい。

【評価4】

・キャリアプランニングを意識した指導継続はとても大切なことであるが、就職して終わりではない。その先の夢もイメージさせなければならない。大学を出た先の広がり具体的に聴く、知る機会が1年生のうちから数多くあるとよい。

・令和3年度については、コロナ禍でありながら、よい活動が展開できており、総合的にもよかったと感じている。学校の努力が感じられる。

【評価5】

3. 学校の抱える課題、4. 今年度の基本的な重点目標達成のための評価項目が適当に分類されており、現状に即した評価と先生方の真摯な対応に感謝する。いつも素晴らしい理想を掲げ、課題達成のため、日々の錬磨に心がけてゆきたい。一步一步の活動が学生に着実な成果として結実していくことを願う。

【評価6】

・挨拶の習慣が更に向上するとよい。本校は比較的挨拶が少ないと思われる。

・日本と外国の価値観、考え方、常識、風習などの根本的な違いを生徒にしっかり伝えるべきである。あらゆる分野での留学経験者の講義があってもよい。

・成績低下の影響などを理由に部活をやめる生徒がいますが、高校生活での優先順位は勉強よりも継続力かと考えます。

・多様性を理解する機会ともなる関特支との交流会と手話講座を、実施する方向で進めていく。

【保健厚生部】

・災害時の本部設置・運営について、具体的な場所や担当者を決めておく必要がある。（職員の周知も必須）

【図書部】

・新型コロナウイルス感染症拡大の収束後を見越して、中止・延期していた様々な活動の再開準備を具体的に進める。

・教員の世代交代も進む。新任や若い先生方が自信を持って教育活動に取り組める様、「教務」「進路指導」「生徒指導」等、「各分掌のリーダーシップ」を学校運営の核とする「安定した学校運営システム」を構築する。

・小・中学生やその保護者に訴求できる、本校の強みの「教育コンテンツ」維持・開発・継承が必要である。

・「競合他校」との明確な差別化によって、継続的に本校の独自性・存在価値を高める取り組みの推進が必要である。

【広報部】

・文化祭初日のPTAバザーの見直しが必要。軽食はキッチンカーを導入するなど以前とは違った方法を検討したい。密を避けるチケットの事前販売方法を考えたい。

・2年続けて中止したPTA行事の除草ボランティア、進路研修の実施はコロナ次第である。

・2年間続けて講師のほうからキャンセルされた校内PTフォーラム講演会の講師選びは役員の見解を事前に取り入れて選定したい。

・PTA総会は資料を配付することで代替する方法がよいと思われる。

・保護者懇談の案内や卒業式の案内は教務部が担当した方がよい。

・入学式時のPTA入会式は従来の方でよい。

【2年学年会】

・学習支援や進路指導を効率に行うことができるシステムの構築が必要である。

・学習以外で生徒が個性や能力を活かして活躍できる場の提供が必要である。

【3年学年会】

・一人一人のモチベーションを高め、3年間継続させる指導をする。

・昨年度の継続にとどまらず、さらに高い目標を持ち、学校行事や学習、部活動に取り組めるようにする。